

地質ニュース

昭和 58 年 12 月 第 352 号 1 9 8 3

三宅島火山1983年10月3日の噴火.....	曾 屋 龍 典 宇 須 都 浩 三 茂	10
北海道に初めての森地熱発電所.....	川 村 政 和	2
「資源大国」オーストラリアの素顔と C.S.I.R.O. (連邦科学産業研究機構)の地下資源研究	富 樫 幸 雄	24
もう1つのヘリウムとメタン (その1)	福 田 理	32
中国の鉱物資源⑥ ——鉛・亜鉛鉱床(続)——	古 宇 田 亮	50
会話型データ処理——その11—— GEOCAPSでのデータの編集	吉 井 守 正	56
地質標本館だより 「地質標本館」満3年を迎えて	白 髭 弘 次	64
5万分の1地質図幅「岩国」	東 元 定 雄 瀧 原 木 輝 一 佃 中 島 郁 栄 吉 隆	69
地質ニュース総目次 (No. 341~352) 1983		70

口 絵	三宅島火山1983年噴火の記録.....	曾 屋 龍 典 宇 須 都 浩 三 茂	
-----	----------------------	------------------------	--

編 集 地 質 調 査 所

表 紙 の 写 真

三宅島は1983年10月3日噴火した。1962年以来21年ぶりである。噴火は雄山中腹のほぼ南北に伸びる長さ約4kmの割れ目でおこり、真赤な溶岩噴泉が見られた。さらに噴火は南の海岸付近でも始まり、新降池の北西部(大きな白煙を上げている部分)と新鼻(海に突き出た部分)にも新火口ができた。溶岩流のうち西側に流下したものは10月3日夕刻阿古地区の集落に達し集落の大部分を埋めつくした。南西に流下した溶岩流(写真の左端にその一部が見える)は粟辺付近で海に流入した。風下の坪田地区を中心とする三宅島南東部は、降灰によって大きな被害をうけた。特に坪田地区では主に新降池付近でおきたマグマ水蒸気爆発によって生じた発泡度の悪いスコリアによる被害が大きかった。また、この火口の周囲には直径1m以上の岩塊が放出された。この付近は写真左側に残っているように緑豊かな島の楽園として知られていた地域であったが、一連の噴火により荒野と化した。10月4日午前11時頃撮影。

(写真 文 須藤 茂)。

発 行 株 式 会 社 実 業 公 報 社